

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070301195
法人名	医療法人岩下会
事業所名	岩下病院グループホーム あさがお
所在地	群馬県桐生市宮本町1丁目8-33 (電話) 0277-20-8131
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 2階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩下病院 内藤歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者・職員は支援する側・される側という関係でなく、共に生活しているとの認識のもとに、利用者もそれぞれ役割を持ち、自分もホームの一員である事を実感し、張り合いを持って生活出来るよう支援にあたった。一日の中での楽しみの一つである食事については特にこだわり、利用者の希望を取り入れながら献立を考え、手作り料理を心がけ利用者と職員と一緒に食事作りをしている。利用者の服装や居室の様子などから、一人ひとりの個性を大切に考えながら支援していることが伺えた。近隣の入居者が多いことやホームが市街地に立地している事情等もあり家族の来訪頻度が多い。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点①運営理念の共有②重要事項説明書の確認印③定期的な会議の開催④研修会への職員の参加については事務長・管理者・職員等が検討し、改善に向けた努力によりクリアされている。施設については課題として検討はされているが、諸事情により現在も状況は変わっていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者と全職員の話し合いにより作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3~4ヶ月に1回開催されており、メンバーは住民代表・市関係者・家族・法人代表(事務長)で、会議の内容は管理者にも伝えている。会議の中で、「ホームも地域に居住する仲間」として自治会に加入したらとの話題が出て実現し、その後地域との交流に活かされている。次回の会議からはホーム管理者も参加する事になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎日来訪される家族や少ない方でも月に2回は来訪されるので家族と接する時間が多く、家族の来訪時に写真等を見せながら日頃の暮らしぶりをお知らせして、気軽に話し合いの出来る雰囲気を作り、家族の意見・要望・苦情等を聞いて運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しているが、自治会の行事に積極的には参加していない。しかし、廃品回収の協力やお祭りの見学など、地域の人との交流には努めている。又隣接している美容院を入居者が利用しており、お隣さんとしてお付き合いをしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設2年目になるが、開設時より地域医療との連携を図りながら、「住み慣れた地域での安心した生活の継続を支えるための柔軟な支援」を事業所の理念として策定している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員が常に理念を共有するために、毎日目にする業務日誌の表紙に理念を記載しており、日々確認しながら実践に向けて取り組んでいる。又理念は廊下や事務所にも掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会の行事として行なわれる廃品回収に協力したり、お祭りを見学するなど、地域との交流に努めている。ホーム入居者は隣接する美容院を利用しており、地元の人との関わりを持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全職員が理解し、外部評価の結果を踏まえて検討し、改善に向けて努力している。前回の外部評価についても施錠の件以外はクリアされている。今回の自己評価は管理者と職員が話し合いながら作成した。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヶ月に1回の割合で開催している。メンバーは住民代表2名、市関係者1名、家族1名、法人代表(事務長)で管理者は参加していないが会議の内容は管理者に伝えている。会議での意見を参考にサービスの質の向上に反映しており、自治会加入も話し合いの中で実現されたもので、地域との交流に活かされている。	○	現在、運営推進会議に管理者は参加していないが、次回からは参加の予定と言われる。直接利用者との関わりを持つ管理者の参加を是非実現して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の事務長が市町村との連絡や運営推進会議と関わりを持っており、現在事業所として関わりを持つ機会はない。	○	事業所の考え方や実情を知ってもらうためにも、ホームの管理者は事務長と共に市町村との関係作りに取り組んで欲しい。
現場の実情等を積極的に伝えるためにも、ホームの管理者は事務長と共に推進会議に参加の市担当者を通してアア質王損との					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日来訪する家族や少ない方でも月に2回は来訪されているので、家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に気軽に話の出来る雰囲気作りに留意し、家族の意見を聞いて、運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近ケアマネの異動があったが、職員の異動はこしはばらくは見られない。新入職員に対しては研修マニュアルによる研修の場を設け、慣れるまでの約1ヶ月は1対1で指導にあたり、夜勤の1～2回は先輩職員が共に業務につくようにしている。。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体主催の研修会が定期的開催される他、事業所外で行なわれる実践者研修や救急救命についての研修等にも出来るだけ参加する機会を与え、会議等で内容を報告し、職員は共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、連協主催の研修会に参加し、他のグループと情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設に来て見学してもらい、納得してから入所していただいている。不安のある方はホームに馴染めるまで家族に遅くまでいてもらったり、朝早く来ていただいたりと家族と相談しながら徐々に馴染めるように支援にあたっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は支援する側、される側と言う関係でなく、お互いに共に過ごし、学び、支え合う関係を大切に考えながら日々の支援に当たっている。利用者から料理の仕方や諺などを教えてもらう場面等が時々見られており、ありがとうの言葉を添えるようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけたり、言葉や表情からその真意を推し測ったりと、それとなく確認している。意思疎通の困難な方には家族等から情報を得るようにしている。実家に行きたいと希望する方に職員が同行しお連れしたが、現実には他人が住んでいた事もあった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず家族の意向を書いて頂き、それらを基にして職員が意見の交換をし、その結果を踏まえてケアマネジャーが介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直し・モニタリングは3ヶ月に1回行っている。状態の変化に伴い随時、現状に即した見直しを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な歯痛などの受診には家族に代わり職員が通院支援をしたり、買い物に同行するなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で同じかかりつけ医となっている7人の方は定期的な訪問診療を受けており、体調に変化の見られた時には家族に連絡し適切な治療が受けられるよう支援している。他の2人の方はそれぞれのかかりつけ医があり家族がお連れしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後に本人・家族から終末期、重度化した場合、緊急時の対応等についての同意を得ている。本人が同意書にサイン・捺印している方もいる。気持ちに変更のある場合は話し合いを持つ事になっている。これまでに看取りは経験していない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時に個人情報の保護・漏洩防止について誓約書を書いている。利用者の尊厳を傷つけないように、言葉かけや対応に配慮しながら支援にあたっている。写真などを掲示する場合は家族・本人から了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	バイタルチェック等の時間は例外として、職員の都合を優先する事はなく利用者のペースを大切にしながら個別性のある支援を行っている。訪問時の昼食も利用者のペースに合わせた対応がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に献立は職員が立てるが、利用者の希望を取り入れ食事が楽しいものになるように配慮している。利用者は出来る範囲で野菜の皮むき等の調理や配膳に参加し、職員・利用者は同じテーブルで同じ物を食し、食器拭きは利用者全員で行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の段差を越えられない利用者3人はシャワー浴で週に2回、他の利用者は一般浴で週に3回となっているが、失禁などの場合は随時シャワー浴で対応している。全員の一般浴をと試みたが、利用者の身体状態と浴槽の問題で対応が困難な方がおり、止む無くシャワー浴となっている。	○	「入浴を楽しむ事の出来る支援」の視点から考えても、シャワー浴ではくつろいだ気分での入浴とは考えられないので、浴槽の工夫・対応の仕方について再度話し合いを持って欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・能力・趣味等を考慮し、洗濯物干し・洗濯物たたみ・花の水やり・料理の下ごしらえ・食器拭き等、経験を活かした場面作りを工夫し、常に感謝の言葉を伝えている。又、時には気晴らしを兼ねて屋外でバーベキュー楽しむことがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・利用者の体調や希望に応じて近隣を散歩したり、買い物に出かけたりと出来るだけ外に出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、出入りはエレベーターを使用しているため、利用者の安全を考え家族の了解を得てエレベーター入りに鍵をかけている。最近、鍵をはずして外に出た方がおられたため現在もやもう得ず錠し、鍵は見えないところで保管している。	○	鍵をかけることによる心理的不安や閉塞感等について再考し、外出のくせや傾向をつかみながら、職員の見守りや連携プレーにより、鍵をかけることを常態化しないような取り組みを検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練を行っている。春には桐生地区防災管理センターの訓練で、緊急連絡の方法・消火器の使い方の実習をし、秋には消防署による訓練を予定している。緊急時の連絡網があり、母体の病院に繋がっている。職員が防火管理者の研修を受講している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食事を提供し、食事や水分の摂取量をチェックして記録に残し、全職員が共有しており特に拒食の人に対しては気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には絵や写真等をかけて落ち着いた雰囲気を出し、ベランダには花を植えて季節感を、台所からは食事の準備の音や匂いが漂って生活感を感じることが出来、居心地良く過ごせる工夫が見られる。ホームの窓からは建ち並ぶ家々が間近に見られ、地域の中で生活している事を実感することが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が持ち込んだダンス・冷蔵庫・テレビ・装飾品・家族の写真等様々なものがあり、利用者が安心して過ごせるように、それぞれの方の個性を活かした部屋作りが工夫されている。		